

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	町田市立町田保育園
施設所在地	町田市原町田6丁目26-15
法人名	町田市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

どろ

<テーマの設定理由>

砂と水の配分に応じて形や粘度、手触りが変わる泥に触れることで、好奇心に任せ思い思いに造形を楽しみ、個々のイメージを膨らませ遊びを展開することが想定できるため設定しました。

2. 活動スケジュール

7月…園庭全面を使って3.4.5歳で数回実施。

8月…連日の水遊びからどろんこに発展

9月…子ども達からのリクエストで購入した玩具・道具でどろんこ再開

10・11・3月…泥団子づくりに発展

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

砂場用玩具…シャベル大小、水流し、バケツ、テーブル、ベンチ

給食トレー…探究時間の保証として各自が配膳し自分時間で食事ができるよう設定した。

マイク・アンプ（スピーカー）…活動発表する場を設定した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

①水を使って砂場に池を作ることにより、水が砂に吸収される様子を観察し水を留める方法を考える

②砂場に作った山に川を通すために玩具を使用しながらつなぎ方や高低差を考慮しながら水の流れを知る

③砂と土の違いや水との配分より粘度が異なることに気づく

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

①子A：「砂場の水はすぐなくなっちゃう、どうしたら溜まるかな？」

子B：「園庭には水たまりができるのに、どうしてかな？」

保：「何か違うのかな？」

子C：「縁のシートがあるからじゃない？」

子A：「ビニールがあると良いね」

子C：「大きいビニール袋ちょうどいい！」

保育者は子ども同士の会話を見守り、気づきが生まれるような声掛けを行った。

②子ども達（年長児）が水流しをつなげ砂山に水を通したいという目的をもって始めた。

・水を流しても進まないため、水流しの角度を調整

・水がもれることから、つなぎ目の重ね方を調整

（隙間を作らない、重ねる順番、カーブは水が漏れるからやめよう等）

子どもたちが困難に直面すると、それぞれがアイディアを出し合い、試行錯誤しながら取り組んだ。1時間かけて思い通りの形にしていたが、保育者は見守りのみ。

③光る泥団子づくりをしているときに、砂場の砂でもできるか聞いてきた子どもがいた。

試しに保育士と一緒に作ってみたが、硬くならなかった。

どうしてだろう？という子どもの言葉に、同じように興味をもった子どもたちと一緒に考えた。「色はどうかな？」「手触りは？」「水を入れたらどうなる？」等考えるヒントを時々声掛けしながら、砂と土の違いについてそれぞれ考えを深めていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の発信や気づきに保育者が気づけるようモニタリングが必要と感じた。

活動を見守る保育者全員が、子どもの育ちや状況を把握し、共通の距離感で子どもを見守ることが重要と感じた。